



カブの収量の違い

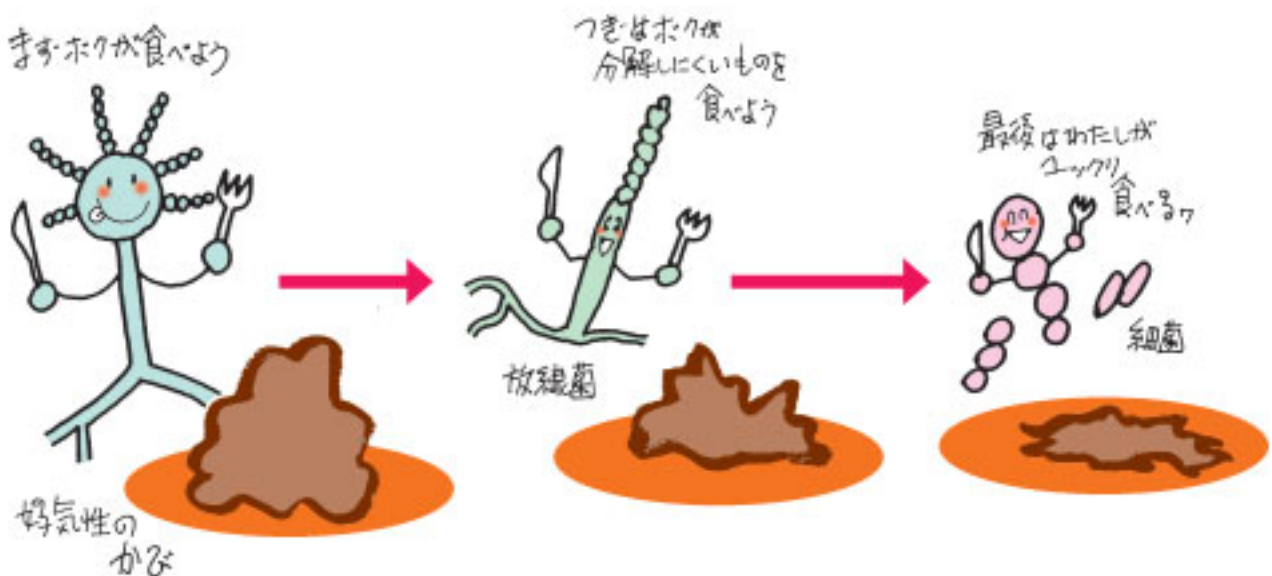


カブの肌のきれいさにも大きな差

● 好気性微生物の連携プレーがたいせつ

完熟堆肥になるか未熟堆肥になるかは、微生物の活動環境と分解の進み方で決まります。微生物には酸素がある環境で活動する好気性微生物と、酸素がないか少ない環境で活動する嫌気性微生物とがあります。堆肥原料を早いスピードで分解するのは好気性微生物です。堆肥づくりを始めると、すぐに好気性のかび（糸状菌）が分解しやすいものから食べて分解を進めます。続いて放線菌が急激に増えてやや分解しにくいものを食べて分解し、最後には細菌がゆっくりと繊維などを食べて堆肥の熟成を進めます。このように、好気性のかび 放線菌 細菌という連携プレーが順調に進むことがたいせつです。

そのためには、水気の多い生ごみ堆肥づくりではとくに、空気（酸素）をじゅうぶん与え、好気性微生物の活動環境をよくすることが第一です。未熟堆肥の多くは、酸素不足下で堆肥化が進んで分解が遅れたり腐敗が進んだりした堆肥です。



微生物の連携プレーで堆肥ができる